

令和3年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(横手市)

1 市の概要(人口 85,589 人)※令和3年4月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和3年4月1日現在)						
幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
4園	4園	2園	27か所	0園	0園	14校

その他:事業所内2 認可外5

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題
(1) 各就学前施設において実施している、特徴ある保育に配慮した支援の在り方について検討が必要である。 (2) 就学前施設と小学校との接続連絡会の設置や交流内容にばらつきが見られる。 (3) 小学校・就学前施設教職員等の双方における子どもの学びの理解が不十分である。

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目的(3年間)	
本市において2016年度より実施済みの「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」の成果を踏まえ、就学前施設の教育・保育の質のさらなる向上と小学校教育との円滑な接続に向けた環境を整える。	
主な内容(3年間)	
(1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・市の小学校教育指導担当課である教育指導課に、指導主事1名と教育・保育アドバイザー2名を配置し、事業を実施することで、幼小接続に向けた連携を強化する。 ・教育指導課(小学校教育指導担当課)と子育て支援課(就学前教育保育担当課)との連携体制を確保する。 (2) 教育・保育アドバイザーによる園の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・就学前施設の教育・保育の質の向上を目指し、保育力向上への取組として、指導主事と共に就学前施設における要請訪問による助言と園内研修支援を継続的に実施する。 (3) 専門性の向上のための研修の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・就学前施設の教育・保育の質の向上に向けた取組として、就学前施設の課題に応じた研修会を開催する。 (4) 小学校教育への円滑な接続に向けた研修等の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・就学前教育・保育と小学校教育との円滑な接続のため、育ちと学びに対する幼保小相互理解を図る取組として、研修会の開催、教職員の体験事業の継続実施、幼保小自主事業への支援を行う。 (5) 県との連携体制の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・県の就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会や研修会への継続参加をしていく。 ・県教育庁幼保推進課指導班からの助言をもとに体制の見直しを図る。 ・県教育庁南教育事務所総務・幼保推進班指導主事や県教育・保育アドバイザーと共に、園の課題解決や研修会運営のための情報共有をしていく。 	
年度別重点	
令和元年度	・横手市幼小接続推進協議会開催、市主催の研修会を中心とした幼小接続に向けた理解と推進の基盤体制づくり
令和2年度	・就学前施設の教育・保育の質の向上に向けた園内研修の支援、及び、小学校との円滑な接続に向けた相互理解のための取組継続実施
令和3年度	・教育・保育力向上のための研修充実に向けた支援、及び、幼小接続期カリキュラムの実施・見直しの強化と接続体制の構築

4 令和3年度の具体

目的

本市において2年間実施済みの「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」の成果を踏まえて、県と連携しながら、就学前施設の教育・保育の質の向上と幼小の円滑な接続に向けた体制を構築する。

実施内容及び実施状況

(1) 「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

- ・市民福祉部との協力による関係機関のつながりの強化
 - ◇横手市子ども・子育て会議、横手市幼小接続推進協議会の事務局としての連携
 - ◇5歳児健康相談会、「幼児言葉の教室」への通級等を通して
 - 5歳児健康相談会で保健師が対応して気になる園児をアドバイザーが面談を通して、より詳しく観察し、必要に応じて巡回相談につないでいる。
 - 市民福祉部幼保担当課との年複数回の情報交換会を通し、より連携を深めたい。
- ・「横手市幼小接続推進協議会」における市一体としての具体的な取組につながる協議及び関係団体との協力強化
 - ◇第1回横手市幼小接続推進協議会開催：令和3年6月18日
 - 【会場】横手市条里南庁舎会議室
 - 【参加者】協議会委員（10名中9名）事務局（7名）
 - 今年度の接続推進の方向3点（①保育・教育互いの理解への機会②資質・能力を基にしたカリキュラムマネジメントの推進③幼小接続についての保護者への発信）を確認し、各小学校、就学前施設へ周知し、推進に努めた。
 - 各団体でその後どの程度共通理解を図り、進めているのかを把握したり、推進に向けて介入していったりすることが難しい。
 - ◇第2回横手市幼小接続推進協議会開催：令和4年2月17日



(2) 「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

- ・要請訪問前後の継続した訪問による指導計画や事後研修のサポート
- ・保育士等との面談、気になる子の保育やその保護者への対応、幼小接続についてなど園のニーズに応じた随時訪問の継続
- ◇令和3年度アドバイザーによる巡回訪問・指導（横手市）

⑥派遣実績 計 54施設／全54施設 548回	
回数	・幼稚園：私立4園（44回）
数	・保育園：公立3園（34回）、私立24園（291回）
	・幼保連携型認定こども園：私立2園（21回）
	・認可外保育施設5か所（26回）、事業所内保育施設2か所（17回）
	・小学校：14校（115回）
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、32園（76回））
	・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、9園（10回））
	・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、9園（9回））
	・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、11園（11回））
	・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、40園（369回））
	・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、5園（5回））
	・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、14校（68回））
理由	令和2年度の実績を踏まえ、より保育の質向上をサポートできる訪問を重視し、各園のニーズに応じ、継続した訪問をしていきたい。また、幼小接続について実際の接続組織の会議に参加し、小学校区ごとのニーズに合ったサポートをしていきたいため。

○事前訪問では、当日の保育参観の在り方や指導計画の見直し、参観後の園内研修の方法や内容について話し合った。園長・主任等との話し合いもあれば、事前園内研修の形で、多くの職員が事前に研修する場合もあった。要請訪問当日も、ファシリテーターの後方支援をしたり、職員と一緒に付箋に記入したりすることもあった。それによって、各園で園内研修が盛んに進められてきており、市主催の研修会を実際に生かした研修が多数の園で行われるようになってきた。実際に保育者も研修のよさに気付いてきており、前向きな感想が聞かれる。



ADがグループ協議に参加し、話し合いをコーディネート

- 若手保育者や悩みを抱えている保育者等の気持ちに寄り添えないでいる現状がある。保育協議会に相談しつつ、研修会または個人面談（相談）を来年度進めていきたい。
- 各園での研修のニーズは様々であり、各園の年間研修計画の中で、市の要請訪問の位置づけを年度当初に把握しつつ、具体的な関わりを考える必要がある。

（3）「専門性の向上のための研修の充実」

- ・テーマや年齢層など対象を絞った、短時間での研修を企画・運営

◇第1回横手市保育実践力向上研修会：令和3年5月28日

【会場】横手市条里南庁舎講堂

【参加者】市内就学前教育施設職員（園内研修をリードする職員）34名

【内容】講義「望ましい園内研修を進めるためのファシリテーターの役割」

横手市教育委員会教育指導課

指導主事 小川由美子

演習 事例を基にSOAPを視点とした研修の実際



SOAPによるグループ毎の事例研修



◇横手市保育士会主任研修会：令和3年6月22日

【会場】横手市平鹿生涯学習センター交流ホール

【参加者】市内保育所主任保育士 27名

【内容】改定児童票の記入についての講義・演習

横手市教育委員会教育指導課 指導主事 小川由美子

○ほぼ全ての施設から参加があり、園内研修の基本となる形を参加者に講義の演習で具体的に理解してもらえた。園内で実際にやってみたいという声がアンケートで聞かれ、今年度の訪問では、多くの園でSOAPを視点とした研修が行われた。

- 県主催の研修会も計画されている中で、現場の先生方が市の研修をどの程度必要としているのか、つかめずにいる。研修を数多く実施すればいいというものではないと思うので、園内での日々の保育のために、必要な研修を厳選して行っていきたい。

- ・小学校区・法人同士・交流園同士での「他園に学ぶ研修会」による研修会実施

◇第1回 アソカ保育園（小学校区区域内3園と1小学校の職員参加）16名

◇第2回 大森保育園（同法人間2園と1小学校の職員参加）12名

◇第3回 明照保育園（交流園2園の職員参加）9名

◇第4回 常盤保育園（同法人間2園の職員参加）10名

◇第5回 下鍋倉保育所（同地区3園と1小学校の職員参加）15名

◇第6回 醍醐保育園（同法人間3園と1小学校の職員参加）15名

- ◇第7回 樽見内保育園（法人間3園の職員参加）8名
- ◇第8回 雄物川保育園（法人間3園と1小学校の職員参加）11名
- ◇第9回 川西保育園（同法人間2園と1小学校の職員参加）14名
- ◇第10回 旭保育園（同法人間2園と1小学校の職員参加）10名
- ◇第11回 吉田保育所（近隣3園と1小学校の職員参加）9名
- ◇第12回 浅舞感恩講保育園（近隣3園の職員参加）13名

○施設同士で学び合うという土壌がなかった中で、アドバイザーが丁寧に説明し、声を掛けつつ実施までに至った。どの参加者も、自園以外の保育を見る機会がこれまでほとんどなかったもので、有意義な研修となっていた。また、保育参観後の協議にも参加し、積極的に意見を述べたり、感想を口にしたりして、公開保育を行った園にとっても有意義なものとなっていた。

●コロナ禍で、以前のような市内全ての参加者が一堂に会しての研修会は難しいと考える。だからこそ、こうした数園と小学校とのミニ公開保育研究会をより広げていきたい。しかし、公開に二の足を踏む園もあり、どう広げていったらいいのか悩んでいる。

（4）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

・幼小教職員の合同研修会開催

◇横手市幼小合同研修会：令和3年8月18日

【会場】横手市条里南庁舎講堂

【参加者】市内全就学前教育施設（36名）
市内全小学校（14名）

【内容】「横手市の接続状況と今後の方向性について」

横手市教育委員会教育指導課

指導主事 小川 由美子

グループ協議（撮影動画とエピソードをもとに子どもの姿から学びを）

～年長児の遊びと1年生の生活科学習を事例に～

講評・講義 秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 石山 潤 氏



砂遊びをする子どもの姿を動画で見合い、学びや育ちを付箋紙に書き込む

○撮影動画を使用し、実際の子どもの姿を基にした協議は、非常に具体的で学びの姿のつながりを共通の視点で話し合うことができた。

●コロナ禍で短時間での開催を計画したため、もっと協議の時間が欲しかったという参加者の声が聞かれた。短時間で協議をいかに有意義に行うか課題が残る。

・資質・能力を基にした接続期カリキュラムの作成・見直しの推進

◇横手市教育推進委員会幼小連携委員会第1回研修会：令和3年8月2日

【会場】横手市平鹿生涯学習センター視聴覚室

【参加者】市内小学校委員10名

【内容】講義「幼児期に育まれた資質・能力を小学校でさらに育てるために」

横手市教育委員会教育指導課 指導主事 小川 由美子

協議「幼小接続の取組に係る情報交換」

◇横手市教育推進委員会幼小連携委員会第2回研修会：令和4年1月7日

【会場】横手市平鹿生涯学習センター視聴覚室

【参加者】市内小学校委員10名

【内容】取組の成果と課題

協議「幼小接続における学区の実情に応じた課題解決を図るために」

◇横手市保育士会保育研究委員会：年7回開催

【内容】幼児期の終わりまでに育てたい姿を視点とした各年齢の育ちを読み取る

- ・小学校区での職員体験事業、授業参観・保育参観の継続
◇職員体験事業参加者(小学校30名 就学前教育施設35名)
- ・各小学校区での幼小連携委員会の組織づくりと計画的連携事業実施



横手市立旭小学校での保育教諭による
体験事業（1年音楽科）

○横手市幼小接続推進協議会の開催を土台とし、各関係団体が研修を進めており、市教委としてその研修の講師を務めたり、一緒に参加したり、アドバイスをしたりしながらボトムアップの取組を進めている。

●幼児期の終わりまでに育てたい姿を小学校のスタート・カリキュラムにどう生かしていくかの理解をさらに広めていきたい。

(5) 「県との連携体制の充実」

- ・県主催の協議会・研修会、事業実施し主催研修会への継続参加
◇教育・保育アドバイザー連絡協議会（第1回～第4回）参加
◇園長等運営管理協議会（5月27日）参加
◇就学前教育理解推進協議会（6月2日）参加
◇新規採用者研修（7月15日）参加
◇5年経験者研修（9月2日）参加
◇キャリアアップ研修マネジメント（9月17日）参加
◇中堅教諭等資質向上研修会（10月13日）参加
◇教頭・主任等研修会Ⅱ（11月2日）参加
◇中堅教諭等資質向上研修会（11月9日）参加
◇就学前教育推進協議会（11月26日）参加
- ・県の指導を仰ぎながら事業体制の見直し、継続強化
◇ステップアップ事業支援訪問として、市主催の研修会についての相談、また講師として講評・講義を県指導主事に依頼
- ・「市アドバイザーに学ぶ会」の継続実施
◇10月1日 雄物川保育園で予定していたが、コロナウィルス感染防止の観点から中止
→12月21日 浅舞感恩講保育園で開催
◇市教育・保育アドバイザーが、男鹿市と仙北市での学ぶ会に参加
- ・県要請訪問へのアドバイザー同行訪問
◇県要請訪問への同行：6月15日 相愛保育園
7月9日 認定こども園沼館保育園
9月9日 和光保育園
◇県認定こども園訪問への同行：6月16日 認定こども園土屋幼稚園・保育園
10月19日 認定こども園こひつじ
- 他市の事業状況やアドバイザーとしての関わり方を知ることができ、本市の事業に生かすことができている。また、県指導主事や幼保指導員の指導を実際に学ぶことができ、自分たちの訪問時の参考にしてしている。
- アドバイザー連絡協議会と市アドバイザーに学ぶ研修会を一緒にして、各地で行うということもできるとよいのではないかと。

5 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(R元～R3)の成果と課題

- 私立園が大多数の本市においてこの事業への理解を図っていくのは一筋縄ではなかったが、アドバイザーが毎月の広報誌を手交しながら、顔を合わせ、話をしていくことで関係性を築いてきた。
- 保育を基に園内研修をどの園でも行うことを目指して、研修会を開催したり、事前訪問で研修内容の相談にのったりしてきたことが、形となって現れてきた。
- 幼小の円滑な接続に向けて、どちらの側にもその意識が表れ、そこに向けてそれぞれを理解していこうという具体的な連携・接続への実施が増えてきた。
- その園らしい特徴ある取組を尊重しつつ、要領や指針にのっとった保育を進めていくというバランスが難しい。トップダウンのやり方では押しつけになってしまい長続きはしないし、何かの統一した型を提示してしまえば、それで完結してしまう。保育の質向上も幼小接続も目に見える結果ではなく、その過程が大切であると考えてるので、就学前教育施設、小学校ともに理解を広げつつ事業を継続していきたい。